

はねっと 6

仙台市市民活動サポートセンター通信 ばれっと

“ばれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



仙台をワクワクさせる人物をご紹介します

生徒がたくましく生き抜くための 力になりたい

AKIU SCHOLÉ(アキウスコレー)

伊藤 真結 さん(32)

「自分の選択で、人生を切り拓く力を育んで欲しい」と話すのは、生まれ育った自然豊かな仙台市太白区秋保で、AKIU SCHOLÉという学校を運営している伊藤真結さんです。子どもの主体性・自立性を尊重した教育を行っています。毎月2回、中高生向けに開校。国語や数学といった通常の授業ではなく、一つの議題で対話を重ねることで、自己や他者への理解を深め、互いの違いを認め合う力を身につけます。「学校は自らを育み、たくましく生きる力をつける場所であってほしい」と、生徒や保護者、または地域の大人たちと、試行錯誤しながら授業づくりに取り組んでいます。

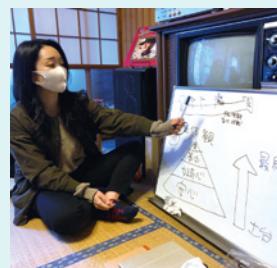
AKIU SCHOLÉを開校したのは、2020年4月。それまで8年間、公立高校で数学を教えてきました。「教師は天職。高校での教員生活は幸せだった」と話す一方、テストの点数で評価され、自信を無くしていく生徒の姿も見てきました。「生徒の多様性をもっと尊重できたら…」と考えていた時、宮城県で子どもが自死するニュースが続きました。「いま、苦しんでいる1人が、自分を大切に生きていける学校をつくりたい」と、教員生活を終えることを決意しました。学校づくりで気づいたことは、「生徒も自分も互いにそれぞれのペースがある。価値観が違うのは当たり前」ということ。開校当初、新しい学校を発信していこうと意気込む伊藤さんの元に入学してきたのは、伊藤さんの意気込みを意に介さないマイペースな子どもたちでした。「等身大でいいということを、改めて目の前の生徒に教わった。私にとっても学校です」と話します。

これからも秋保で人との関わりを広げながら、「生徒たちが、これからの人生を自分で支えていける授業をつくっていききたい」と決意を新たにします。



AKIU SCHOLÉ(アキウスコレー)

スクールの語源であるスコレーは、古代ギリシャ語では“余暇”を意味します。子どもたちが、与えられた時間をどう過ごすのかを自ら選択できる力をつけるため、サポートしています。基本的な授業は2つ。自分を知るための「自分科」と、働く大人達を講師に招き、失敗談を含めた人生経験を話してもらうことで、多様な職業や人を知る「世の中科」があります。開校日は月2回。第2、第4土曜日の11時～15時頃まで。



▲HP



▲Twitter



地域の人の中に寄り添い、笑顔を増やしたい

宮城学院女子大学 さくらレオクラブ たなか ゆり 田中友理さん、さたけ みく 佐竹美来さん、おいかわ りの 及川理乃さん

「宮城学院女子大学 さくらレオクラブ」(以下、さくらレオ)は、宮城学院女子大生有志によるボランティア団体です。世界的な社会奉仕団体「ライオンズクラブ」の青年育成プログラムの一環として「仙台青葉ライオンズクラブ」指導・協力のもと活動しています。児童養護施設や老人施設への訪問、地域のイベント補助、募金活動、清掃活動など、取り組む活動は様々です。「地域の人に喜んでもらうことで、やりがいを感じている」と話すのは、メンバーの佐竹美来さんです。2019年に、佐竹さんの地元の近くにある名取市閑上地区で行われたイベントでは、会場のスタンプラリー運営などを手伝い、イベントを盛り上げました。2020年は新型コロナウイルスが猛威をふるい、大学ではオンライン授業が続きました。当時大学1年生だったメンバーの及川理乃さんは、「さくらレオの活動と出会うまで、誰とも交流ができず孤独だった」と振り返ります。メンバーは「コロナ禍で自分たち以上に寂しさや苦難を抱えている人の力になりたい」と、オンライン会議で活動を模索してきました。2020年7月からは、アルバイト収入の減少や、寮内でのクラスター発生による外出禁止など、様々な理由で食糧に困る学生を支援するフードパントリー活動を開始。「助けて」と言い出せないまま不安を抱える気持ちに、「一人じゃないよ」と寄り添いました。同年8月からは、面会制限が続いていた宮城県立こども病院の子どものために

寄付で資金を募り、iPadを贈呈。家族とのオンライン面会ツールとして活用してもらうだけでなく、メンバーが人形劇や絵本の読み聞かせ動画などをつくり提供することで、子ども達の心を励まし続けています。

会長の田中友理さんは「その時に求められていることや、メンバーがやりたいと思ったことに挑戦できる柔軟さが私たちの強み。会えなくても心はつながれるような、温かい活動を続けていきたい」と話しています。



フードパントリー活動で食糧を手渡す田中さん▶

宮城学院女子大学 さくらレオクラブ

Twitter ▶



活動を始める一歩を応援します。

梅干しを購入して障がい者の社会的自立を応援！

特定非営利活動法人ソイプラムは、精神障がい者の社会的自立と、当事者やその家族への支援を目的に活動しています。その一つとして行っているのが梅干しづくりです。障がいのある当事者らが、収穫から販売までを行いながら社会経験を積んでいます。梅干しが熟成するように、当事者と、その家族の心をじっくり育み合いたいという願いが込められたこだわりの梅干し「うめのまんま」は、好評発売中です。

- 販売価格 パック価格：大1,200円(500g)、中600円(250g)、小250円(100g)
- 注文方法 メールまたは電話で注文できます。

特定非営利活動法人ソイプラム (担当: 吉田)

TEL/FAX: 022-279-4259 Mail: npo.soyplum@gmail.com



「うめのまんま」は、無農薬の梅(宮城県巨理町産)とシソ(宮城県産)、天然塩を使い、天日干しで作られています。

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 6月9日(水)、23日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>

[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>

「ばれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。



「ばれっと」は、市民ライターと協働で制作しています。ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行

仙台市市民活動サポートセンター

(指定管理者: 特定非営利活動法人

せんだいみやぎNPOセンター)

発行日 2021年6月1日

デザイン PEACE Inc.

[Twitter]

@SCSC4CA

[YouTube]

サポセンちゃんねる

